



久々の浜田省吾のツアーレポートは
横浜、名古屋からの二元中継でお送りします。

TICA

5月22日(日)

横浜アリーナ

新曲のシングルは2005年に2枚、アルバムも4年ぶりの2005年8月が最後。以降はアルバムからカットしたシングルとDVD、ベスト盤の発売だけで新曲はゼロ。ライブはファンクラブ限定と Fairlife の一員としての活動だけで、ツアーは2006年～2007年にかけて行った83公演のホールツアー以来。—これで愛の持続は難しくないでしょうか。デビュー36年で170を超える楽曲がミュージシャンにとって多いのか少ないのか、他の歌手を知らないのではわからないけれど、増えない限りは200曲でも300曲でもファンにはそれだけでしかなく、まして今。ずっと核の危うさを訴えていたヒロシマの浜田省吾なのだから新しい言葉をもっと発信してほしいと思います（チャリティコンサートは急ぎょ神戸でしたが）。でも震災で核が流れ出た今年、浜田省吾が動き始めたことに運命みたいなものを感じずにはられません。

大いなる期待を抱えて、2007年5月13日の県民ホール以来、4年ぶりの浜省に。雨のせい、横アリの前で浜省をがなっている人もいなかったし、チケットの交換は当日アリーナで、というシステムになったのが功を奏したらしくダフ屋の姿もなくなっていました。



5年半ぶりの横浜アリーナは大きく
びかびかして、なんて大勢の人！
この何年間は小さなハコにしか行って
いなかったから余計です。
改めて800人程度のラーメンズの劇場
の贅沢さを噛みしめました。

17000人収容の横浜アリーナ
入口→



←横アリそばのレストラン

↓横アリ入口のまん前に止まっていた車^^;



↓お約束の
『ツアトラとともに...』



会場に入ると、ちょうどこの日がカメラが入る日でした。HDカメラ27台、ステージ付近はリモートカメラ、客席の上にはワールドカップで見慣れた、上空を異動するウィングカムカメラが入っていて…ということはあとでHPで知りましたが、かなり大がかりな撮影だということはわかりました。

先行で一度は取ったセンターステージから2列目の席を義兄に譲り、再度二次発売で取りなおした3階席のほぼアリーナの壁から、その景色を見ていました。一人で行ったのですが、前に友達で行った代々木の3階席より孤独感に襲われることはありませんでした。

ただS席とA席で値段設定があるのに、一列目と3階のほぼアリーナの壁が同じS席であるのは腑に落ちません。壁がS席ならいったいA席はどこにあるのかと、これはロード&スカイへの苦情。アンケートにも書いておきました。



アンコール2回3時間半、30曲で終了。

震災の影響が心に来てどこにも出られなくなり浜省に行くのも一度はあきらめたけれど、この先何回行かれるかわからないという思いだけで行きました。席はともかくいいステージでした。浜省に感謝感謝。

YUKA

6月12日(日) 日本ガイシホール

約2年振り、それもファンクラブイベントのコンサート以来のツアー参加でした。

このツアーから、チケット転売対策がさらに強化され、コンサート日の10日ほど前に送付されるチケットには座席番号がありません。

当日に入場口でチケットのQRコードをかざし、座席番号が印字された紙を手渡され、そのまま入場になります。入場その時まで、期待しないようにしようと思いつつもドキドキしました。

座席は、アリーナ21列目、センターステージ真横だと判明し、そりゃもう「ひゃっほう！」と飛び上がりたい気持ちでしたが、じんじん同伴でしたし、冷静さを装いながら着席。一緒に参加した2人の知人は「ぎゃー！」と大騒ぎしてました。



その知人は、ツアー初日から全会場で参加してるツワモノで、このツアーかなり良いよと

すでに聞いていました。TICA ちゃんからも良かったって聞いてたし、とても楽しみでした。

今回、ツアー開始の1ヶ月前に東日本大震災があり、復興の問題に加え、簡単に収束のつきそうにない原発問題をいまだ抱えています。原発に支えられているとされる電力事情には、いろいろなしがらみが見え隠れして

いて、世間知らずの私からみても不健全で怪しいニオイがしています。

省吾は今どんな選曲をするのだろうか？どんなMCをするのかな？というのも楽しみの1つでした。

このコンサートでは、「a new stayle war」や「Theme of Father's Son」や

「RISING SUN」を久しぶりに唄ってくれました。私がこれらの曲を以前に聞いたのは、おそらくこの曲が収録されたアルバム発表時のツアーの時に、私が高校生の時以来です。時を経て、そしてこんな状況下で、改めて聞いたこれらの曲には、心から感動しました。そして続く「僕と彼女と週末に」も良かった！

桜井くんのもスキだけど、長く生きた分、省吾の声には含蓄があります。

いよいよセンターステージになり、省吾は2m先から何度も私を見つめて唄いました。

『君に逢いたくて～戻ってきたよ～』と（笑）それにバンドマンたちの仲の良さが伝わってくるセンターステージでした。

『辛いこと悲しいこと、そういうものを誰もが抱えて生きていて
みんなもそういうものを背負ってここに来てると思うけど
そういうものを一時的に忘れて、横に置いたりするんじゃなく
そういうことにこれからまた、立ち向かっていけるような気持ちになれる
それが音楽の持つパワーだし、ロックンロールだ!!』

省吾が言ってくれました。

うんうん、本当にそうだと強く感じたコンサートでした☆